

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	コンビニ（店長）	来客数の動き	・7年に1度の大きな祭があった前年の来客数にかなり近い状況である。1日に100人の客が増えると欠品が目立ち、納品量も増加し、数字が全く違ってくる。多い日には来客数が200人以上プラスになっている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・農業の繁忙期でもあり、商店街の人通りは少ないものの、幼稚園の遠足や小中学校の修学旅行が天候に恵まれ、弁当の材料や菓子を扱う店には多くの客が来店している。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・紳士服の高級ブランドの動きが特に活発になっている。来客数は少ないが、客単価が上がり、得意客に関してはダイレクトメール等による来店が大変多くなっている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・ここ2か月間の売上は、前年の90%前半と低迷していたが、今は徐々に前年をクリアできている。
		スーパー（統括）	来客数の動き	・消費税総額表示から1年が経過し、一点単価がようやく下げ止まりをみせたことや天候の安定で来客数が増加したことから、前年比でみて1～3月に比べ2～3%改善している。特に、ゴールデンウィーク中は約5%の伸びとなっている。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・薄型テレビ全般が好調に推移している。季節商品の代表であるエアコンが動き始め、単価が上昇している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・販売台数は3月ごろから前年同月を上回ってきている。小さい車が売れ、売上も前年を上回るようになっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・3、4月がかなり落ち込んでいたので、まだ悪い状況ではあるが、悪いなりにいくらか良くなってきている。フリーで入ってくる客の客単価も若干上がっており、宴会等の入り具合も多少良くなってきている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・愛知万博に出かける客など、個人旅行客が動き始めている。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・花見シーズン中は昼は前年並みの動きであったが、夜の客の動きが良く、前年同月比で6%の増収となっている。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・デジタル機器の利用状況が右肩上がりでも推移していることや、ケーブルテレビのデジタル契約数も大幅に伸びていることから、客の購買意欲の向上がうかがえる。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・例年のない恵まれたゴールデンウィークの曜日配列で、5月としては過去10年間で2番目の入込となりそうである。団体は前年並みであったが、割引券の使用状況は好調に推移している。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・平日のコンペは年々規模が小さくなってきているが、土日の予約は堅調である。客単価は相変わらず伸びないものの、来場者数が増加傾向にある。
		その他レジャー施設【アミューズメント】（職員）	お客様の様子	・インターネットカフェを中心とするアミューズメント施設であるが、仕事や家庭以外の娯楽を求める客は大勢おり、十分カバーしきれていない状況である。まだオープンしたてで売上はそれほど大きくないが、来客数、客の様子とも上向きであり、これからかなりの増大が見込まれる。
		その他サービス【自動車整備業】（経営者）	来客数の動き	・今年は乗用車の戻り年であるが、3年、5年前の中古車の新規車検が若干増えてきている。今までにない動きであり、明るい材料である。
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・受注が順調に入り忙しい状況である。他の設計事務所に外注して仕事を手伝ってもらおうとしたが、皆も忙しいようである。		
変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・6か月前よりテナントが出ていくことが増え、150メートルで8軒も空きがある状況で入店者もなかなかいない。来街者が少なすぎる。	
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・低迷していた婦人服が夏物を中心に売れており、5月は前年実績をクリアしている。	

スーパー（経営者）	競争相手の様子	・価格競争が激しく利益確保が大変厳しさを増しているため、店舗によっては店全体をリニューアルし、価格競争に巻き込まれないような方針転換を図ったところもある。売上は3か月前とほぼ横ばいである。	
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・食料品関係は販売量、来客数とも上向きであるが、今月は衣料品関係が非常に悪く、全体としては若干マイナス気味になっている。	
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・依然として客の財布のひもは固く、必要な物だけを購入する傾向は続いている。客が店を使い分けている状況である。	
衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・1キロほど離れた駅前に先月ショッピングセンターがオープンした影響で、来客数が減少している。客が来店しても、単価の低い目玉商品がメインの買物となっており、かなり悪い状況が続いている。	
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車の販売、車検等の売上はゴールデンウィーク後にいったん落ち込んだが、月末近くには盛り返し、増加に転じている。	
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・客は無駄な買物をしない傾向で、買上単価も低くなっている。	
高級レストラン（店長）	販売量の動き	・連休の動きは活発であったが、連休後の反動が大きく、後半少し持ち直してきたが、平均すると前年並みで変わっていない。	
旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・愛知万博への需要が比較的堅調に推移しており、販売量の維持に貢献している。	
通信会社（営業担当）	単価の動き	・販売量は若干増え始めているが、1件当たりの利幅は小さくなっている。	
観光名所（職員）	お客様の様子	・連休の入込は例年並みで、レストラン、ホテル関係では一部の人気店は盛況であったものの、節約ムードから全体の売上は例年を下回っている。	
ゴルフ場（副支配人）	競争相手の様子	・前年並みの来客数は確保できたが、競争激化で売上は減少している。プラスマイナスで変わらない。	
競輪場（職員）	お客様の様子	・大きな開催があったが、売上等、前年度とほとんど変わっていない。	
設計事務所（所長）	競争相手の様子	・景気が上向いているという実感はない。当県が特別なかもしれないが、特に、建設関連業種は悪い状況が続いている。建築中の現場も目立たず、個人住宅の設計依頼も少ない。	
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今までになかったような非常に安い不動産には結構引き合いがあり、契約にも結び付くが、貸し店舗等については相変わらず引き合いも少なく、家賃は非常に下落している。街の中も空き店舗が多く目立ち、空洞化が進んでいる。	
やや悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	来客数の動き	・大型百貨店の閉店売出しがあり、客はほとんど百貨店へと流れてしまい、例年同月に比べ、かなり落ち込んでいる。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・ある飲料メーカーがこの地区の経済動向調査を実施した結果、近隣すべてのスーパーで売上が前年を割っている状況である。同形態の店舗が多いのも一因であるが、製造業の業績の伸びがいまだに波及してこない実感がある。
	スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・3か月前に比べ、来客数、客単価とも3～5%低下している。特に、売上構成の高い食品単価が6%低下しており、景気は良くない状況である。
	家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・昨年はオリンピックによる映像商品の動きやエアコン等の販売が良かったが、今年は単価の高い商品が苦戦している。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型車の発売前の時期と5月のレジャー時期とが重なり、来客数、販売量とも減少している。
	都市型ホテル（スタッフ）	競争相手の様子	・市内の各ホテルでは、メンテナンスも自己資金で行うところがかかなり増えている。廃業したホテル、オーナーが替わったホテルなど様々な状態で、当ホテルもかなり危機感を感じている。
	旅行代理店（経営者）	それ以外	・当地域は土木建設、製造業、観光事業が3本柱となっているが、どれをとっても良い方向には向いていない。大きな工場が撤退するという話が2、3あり、建設業でも倒産が出ているので、影響が大変心配である。

		タクシー運転手	お客様の様子	・地方では1人1台自家用車を持っており、休みなどはあまりタクシーを利用しない。毎年のことであるが、5月は大型連休もあり、私用でタクシーを利用する客が少ない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・プロ野球特需で一時的なにぎわいはあったものの、全体的には4月以降タクシー需要は昼夜とも低迷している。
	悪くなっている	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・毎年母の日のプレゼント需要があるが、今年は激減している。連休明けから中旬にかけて寒い日が続いたため、来客数が20%減少している。後半からは愛知万博に出かける客の購買がちらほら出ている。
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・地域全体が自動車産業に依存しているが、本体の自動車の売上が落ち込み、業績の下方修正が発表され、市内に出張で来る人が激減している。医療関係の一部企業は順調で、単価、来客数とも増加しているものの、自動車関連の宿泊者数の落ち込みを埋めるほどではない。
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・このところ容器関連の受注が大幅に増え、残業、休日出動では対応できず、夜間操業も始めている。
		プラスチック製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・2~3か月前から自動車関連の受注量が増加傾向にあり、現在は景気が若干上向いている。
		不動産業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・既に入居しているテナントの増床工事も終わり、当初の予定どおりテナントの入居、稼働が進んでおり、賃貸収入が増加している。
		その他サービス業[情報サービス](経営者)	受注量や販売量の動き	・引き合い、受注案件とも増加傾向にある。情報化投資が大企業中心におう盛であるが、中堅、中小企業は、依然厳しい状況が続いている。
	変わらない	金属製品製造業(経営者)	取引先の様子	・親会社の業種によって景況感に相当違いが出てきている。このところ期末後も平均的に推移している。特に、車の関係では10月からの新長期規制がプラスになっている。
		一般機械器具製造業(生産管理担当)	受注量や販売量の動き	・設備の増強、人員の増員により仕事の負荷は多少解消されつつあるが、全体の受注残に関しては依然、高水準の状況にある。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・企業間格差が厳しい状況が続いている。仕事に対する引き合いは大分出てきており、全般的に増えつつある。
		電気機械器具製造業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・現在、販売量、受注価格の低減、原材料の値上がりのトリプルパンチに見舞われている。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・取引先の企業努力により輸送量は増加しているが、燃料等の高騰により、通常より利益が薄い。
		新聞販売店[広告](総務担当)	受注量や販売量の動き	・今月のチラシ出稿量は96%と、4月に引き続きマイナスになっている。前年に比べて新規出店がないことや、前年は家電関係を始め、アテネ五輪関連の好調が続いたことが、今年になって響いてきている。量販店や百貨店においても、来客数に比べて客単価が落ちており、売上は鈍いということである。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・観光、レジャー関連は目新しい要素に欠け、販売促進活動の効果に限界がみえる。食品、外食関連で確とした営業方針を実行しているところは業績面に成果が出つつある。一方、公共投資、建設関連は依然として厳しい状況が続いている。
	やや悪くなっている	食料品製造業(営業統括)	競争相手の様子	・国産ワイン業界は輸入ワインに押され、相変わらず苦境に立たされており、ワインメーカーの工場閉鎖の話も出ている。
その他製造業[宝石・貴金属](経営者)		受注量や販売量の動き	・小売サイドは客の目を引く新商材を求めているが、シンプルな物しか売れていないので、デザイン傾向の強い商品に対する仕入れ意欲が減退している。展示会も不調である。	
その他サービス業[放送](営業担当)		受注量や販売量の動き	・官公庁及び製造業からの中長期のコマーシャルが5%程度落ち込んでいる。サービス業、不動産業等からのスポットコマーシャルの件数は増加しているが、期間は短く小口化してきている。商店街、スーパーからのイベント受注は大幅に落ち込んでいる。	

	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月は前年並みか1～2割落ちると予想していたが、全く商品の動きがなく、半分くらいの受注量である。落ち込みが激しすぎて首が回らない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先の発注量が減少傾向で、特にパチンコ関係が激減している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が伸びなくなってきており、価格転嫁もしにくい状況である。受注量は3か月前と比べて約15%、前年比で約20%減少している。
		建設業（総務担当）	それ以外	・公共工事の縮小に伴い、特に市町村関係で発注額が大幅に減少している。建設業者に対し、国、県の行政が経営の多角化、新規分野への経営指導窓口を設置している状況である。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求職者数が減少し、新規求人数が前年同月を約30%上回っている。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・派遣社員の契約件数は横ばい状態で推移している。自社に独自の技術力を担保しているIT関連製造業はそれほど落ち込みや波は少ないが、海外に労働力をシフトするのみの企業は厳しい局面を迎えている。全体の求人数はほぼ横ばいである。新幹線延長工事絡みでの派遣要請があるが、期間は1年間ほどの限定である。行楽シーズンを迎えての観光関連業等からの旅行者アンケートなどの発注もこの時期の特徴である。
		求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・周辺で製造業の中堅企業が200人近くの希望退職を募っている。製造関係のほか、物販サービス業も不況であり、全般に社員の募集が極端に少ない。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・製造業からの求人が減少するなど、求人数が伸び悩んでおり、景気の好転要素が乏しい。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人は、平成16年8月以来8か月ぶりに減少したが、前年比では31か月連続で増加していることから、一時的な減少と思われる。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・雇用形態が派遣、請負の求人は多くあるが、ほとんど応募者がいない。一般的な求人は横ばいである。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・一度は就職したものの、求人条件の相違や待遇面（給与、労働条件、休日等）の不満を訴える求職者が目立つ。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	求人数の動き	・採用担当者と話していると、地域によってばらつきがあるものの、すべての産業で景気はやや改善傾向にあると感じる。ただし、専門職を中心とした求人数は若干増えつつあるものの、事務職等の求人には及んでいない。
		やや悪くなっている	人材派遣会社（経営者）	雇用形態の様子
	悪くなっている	-	-	-